様式第１号（第１０条関係）

# ２０２３年度業務実績報告書

提出日 2024 年 1 月 15 日

１．職名・氏名　准教授　長谷川小眞子

２．学位　学位　修士　専門分野 看護学　授与機関 福井県立大学　授与年月 2005 年 3 月

３．教育活動

| |
|---|
| (1)講義・演習・実験・実習 |
| ①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等<br>精神保健（１単位　毎年開講）1 年前期　オムニバス講義 |
| ②　内容・ねらい<br>保健医療福祉の専門職に必要な精神保健に関する基礎知識を学習し、専門領域の学習につなげることを目的とする. |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫<br>本科目は精神保健に関する基礎知識を教授し、専門領域の学習につなげることを目標としている。日常生活での体験や社会で起きている精神保健に関する出来事を教材として取り上げ、精神保健に関する問題（虐待、自殺、依存症等）に関して個別学習⇒グループワーク⇒発表・全体討論する授業展開を行った。授業に関する感想の記述をもとに教授方法の調整を行った。 |
| |
| ①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等<br>精神看護学（２単位　毎年開講）2 年後期　オムニバス講義 |
| ②　内容・ねらい<br>精神看護実践に向けた基本的知識の獲得を狙いとする。こころの健康・不健康の捉え方、精神障害の病理的特徴および治療経過に関する知識を得る。障害が生活に及ぼす影響を理解し、具体的な看護実践の展開に必要な知識を得る。<br>また、精神看護の展開の基礎的知識となる、精神疾患、精神科における各種検査や各種治療法（精神療法、精神科薬物療法など)、精神障害に対する心理社会的リハビリテーションの概要などを理解する。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫<br>講義では、主要な精神疾患に関して、病因・症状・診断・具体的な看護の展開例を示している。学生にとって、精神疾患は理解しにくい内容が多い。したがって、適宜、視聴覚教材等を使用し、学生が精神疾患を患うことの意味や生活のしづらさを理解しやす講義内容を構築している。また、内容毎に確認テストを実施し、正答率が低い内容に関して解説するなど、精神看護を実践するうえで基盤となる基礎知識の習得や看護実践の概要理解の定着に努めた。 |
| |
| ①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等<br>精神看護学演習（１単位）３年前期 |
| ②　内容・ねらい<br>精神の健康問題を持つ人に対して、治療的関係性の活用を基盤とした精神看護学の知識と技術を学習する。また、精神の健康問題を持つ人に対する看護展開の方法について、精神看護の重要な技術である治療的関係性を活用した看護展開と、対象者のセルフケアの再構築に向けて、対象者の持てる力を見つけ伸ばし育てることに焦点を当てた看護過程の展開方法を学ぶ。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫<br>看護過程の展開については、主要な精神疾患の紙上事例を設定し、学生が具体的な看護援助を実践できるよう、講義内容を構築している。2年次の「精神看護学」の学習内容に関しても、復習できるよう、授業内容の工夫を図った。また、看護学科4年生から「精神看護学実習の実際」について講義をしてもらった。その他、精神障害者の地域生活支援の実際および精神看護の専門性に関する知見を得るため、それぞれ「訪問看護ステーションACT‐Jの施設長」「精神看 |

護専門看護師」をゲストスピーカーに招き、学びを深めた。
【ゲストスピーカー　4人（うち本学４年生２名）】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
精神看護学実習（2 単位）3 年後期

②内容・ねらい
実習体験を通して、精神の健康の維持・増進、回復するために必要な知識・技術・態度を統合し、精神に障害を持つ人に対する看護実践の基礎的能力を養うことを目的とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
実習では、初めて精神障害者と関わる学生がほとんどであり、不安や緊張が強いため、特に学生の反応に留意しながら、実習目標が達成できるよう指導にあたっている。
患者の精神症状の理解に関しては、患者の言動の意味を学生と共に考え、病的体験により日常生活が障害されている部分を支持しながら、患者の強みを生かして、患者が主体的に生活できる力を身につけるために必要な看護実践を指導している。
実習を通して、学生は治療環境としての自己を振り返らざるを得ない機会があり、学生にとっては「自分を見つめる」辛い作業になることもある。このような時は、学生が自分の感情や価値観に気づけた事を支持し、自己の課題（自己の感情表出や対象者の気持ちをくみ取る等）を明確にし、課題達成ができるよう指導にあたっている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
精神看護発展セミナー（1 単位）4 年前期

②内容・ねらい
既習の精神看護学関連の学習内容を踏まえた上で、精神障害者の生活を支援する看護実践のあり方や精神看護の専門性とは何かを探求する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
セミナーでは、学生の主体性・自主性を最大限に尊重した。「課題設定」では、自ら探求したい「テーマ」について文献検討を行い、精神障害者の生活を支援する看護実践のあり方を考察した。１名の学生は精神障害者の方の「家族会」に参加し、「家族への支援のあり方」について学びを深めた。また、受講学生全員に対し、「薬物依存症の治療」に対する理解を深める目的で、「務所内で実施される矯正処遇（薬物依存離脱指導）の実際」について福井刑務所を見学した。
【フィールドワーク２件】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業研究：精神看護学（３単位）４年

②内容・ねらい
科学的思考を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につけることを目的とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
学生の研究動機を尊重し、リサーチクエスチョンの明確化、研究方法・結果・考察等、研究に関する基本的な学習内容について理解を深めるために、週１回のゼミを開催した。文献検索や論文作成に関して、学生自らが研究プロセスを踏んでいると自覚でき、研究プロセスを的確に文章表現できるようにサポートした。

４．研究業績

| (1)研究業績の公表 |
| --- |
| ①著書<br>【　本】 |
| ②　学術論文（査読あり）<br>1.「A県下における精神科看護師の統合失調症患者に対するフィジカルアセスメントの実態」,<br>長谷川小眞子、藤井徹也、市江和子，福井県立大学論集 59 号（2023 年 3 月）<br>【1本】 |
| ③その他論文（査読なし）<br>【　本】 |
| ④学会発表等<br>（ポスター発表）<br>*1.「精神科看護師の統合失調症患者に対するフィジカルアセスメントの実態」、日本看護研究学会第 49 回学術集会（2023 年 8 月）、長谷川小眞子、藤井徹也、市江和子.<br>2.「新型コロナウイルス感染症陽性患者のへの電話対応における看護師の思い」、日本環境感染学会第 38 会学術集会（2023 年 6 月）、舛井佐奈枝、室井洋子、長谷川小眞子.<br>3.「A 病院発熱外来の新型コロナウイルス感染症陽性者への電話対応における看護実践」、第 18 回医療の質・安全学会学術集会（2023 年 11 月）、舛井佐奈枝、米谷理恵、長谷川小眞子.<br>4.「発熱外来看護師が実践する COVID-19 陽性患者への電話対応による支援」、第 54 回日本看護学会学術集会（2023 年 11 月）、舛井佐奈枝、米谷理恵、長谷川小眞子.<br>【4件】 |
| ⑤その他の公表実績<br>【　本】 |
| (2)科研費等の競争的資金獲得実績 |
| 【学外】<br>令和 5 年度科学研究費補助金（研究代表者：豊橋創造大学教授　藤井徹也）<br>1.　挑戦的研究（萌芽）: AI を活用した在宅医療における多職種の情報一元化を可能とする連携システムの開発、研究分担者<br>2.　基盤研究（B）: 多職種・多角的データの一元化 AI を活用した訪問看護アセスメント支援システムの開発、研究分担者<br>【学内】<br>2023 年度 福井県立大学看護福祉学部競争的研究費 |
| (3)特許等取得 |
| |
| (4)学会活動等 |
| ・日本精神科看護協会　福井県支部看護研究発表会　論文査読委員（2016 年～現在に至る）<br>・日本精神科看護協会　福井県支部看護研究発表会　講評（2023 年 10 月 21 日） |
| |

５．地域・社会貢献活動

| |
|---|
| ①　国・地方公共団体等の委員会・審議会 |
| ②　国・地方公共団体等の調査受託等 |
| ③　（公益性の強い）NPO･NGO 法人への参加<br>1)「福井 ARC を支援する会」事務局（2020 年 4～現在に至る）<br>事務局として「福井 ARC を支援する会」の開催（月 1 回)・運営、財務（会員会費納入、出納管理等)、庶務全般を行っている。<br>2)「福井 ARC を支援する会」運営会員（2014 年 6～2023 年.10）<br>運営会員として月 1 回委員会参加し、福井 ARC を支援する活動に参加している。 |
| ④　（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動<br>1)「福井刑務所　処遇カウンセラー（薬物担当)」(2020 年 4～現在に至る）<br>薬物依存離脱指導に関する業務支援として教育専門官とともに月 1 回の講義に参加し、アドバイザー的な役割を担っている。 |
| ⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等<br>1）勝山市職員心の健康相談室　相談員（2014 年 4～現在に至る）<br>2 か月に一度、職員のメンタルヘルス相談業務にあたっている。<br>2）坂井市立三国病院　看護研究指導（3 題）(2004 年～現在に至る）<br>研究計画・研究実施・論文作成・研究発表までの一連の指導を行っている。 |
| ⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開催<br>［福井県立大学大学院オンライン公開講座］<br>・「臨床に生かす看護研究」<br>第 5 回「研究や実習指導を通してみた精神科看護の難しさと魅力」(2023 年 7 月 22 日開催）<br><br>［高校入試説明会］<br>・三国高校入試説明会（2023 年 9 月 14 日） |
| ⑦その他 |

６．大学運営への参画

| |
|---|
| (1)補職 |
| |
| (2)委員会・チーム活動 |
| ・学部広報 WG（2023 年 4 月～現在に至る）<br>・修士論文委員（2023 年 4 月～現在に至る）<br>・実習検討委員会（委員長）(2022 年 4 月～現在に至る)<br>（実習関係）福井県立病院統括(2022 年 4 月～現在に至る) |
| (3)学内行事への参加 |
| ［オープンキャンパス］ |
| (4)その他、自発的活動など |
| |
| |